

トヨタ RAV4 環境仕様						
車両型式		6BA-MXAA54	6AA-AXAH54		6LA-AXAP54	
車両重量	kg	1,570~1,650	1,670~1,710	1,690~1,720	1,900~1,940	
CO2排出量*1		g/km	153	113	114	105
		g/km	—	93	—	—
排出ガス	認定レベルまたは適合規制(国土交通省)		平成30年基準排出ガス75%低減レベル*2			
	認定レベル値または適合規制値	CO/NMHC/NOx/PM	g/km	1.15/0.025/0.013/0.005		
車外騒音	規制区分		平成28年騒音規制 M1A2A		平成28年騒音規制 M1B2A	
	加速/定常/近接	dB	70(規制値)/-/75	71(規制値)/-/69	71(規制値)/-/70	
冷媒の種類(GWP値*3)/使用量	g	HFO-1234yf(1*4)/550		HFO-1234yf(1*4)/1,500		
環境負荷物質削減	鉛/水銀		自工会2006年自主目標達成(1996年比1/10以下*5)/自工会自主目標達成(2005年1月以降使用禁止*6)			
	カドミウム/六価クロム		自工会自主目標達成(2007年1月以降使用禁止) /自工会自主目標達成(2008年1月以降使用禁止)			
車室内VOC*7	自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)					
リサイクル関係	リサイクルし易い材料を使用した部品		バンパーカバー・インストルメントパネル・その他内装材			
	樹脂、ゴム部品への材料表示		あり			
	リサイクル材の使用		ダッシュサイレンサー等			
環境負荷物質使用状況等	鉛		電子基板・電気部品のはんだ、圧電素子(PZTセンサー)等に使用 鉛廃止済み部品:電着塗料、燃料ホース、パワステ高圧ホース、ホイールバランス、電球と点火プラグ、塩ビ・ゴム部品、バルブシート、軸受けなど			
	水銀		水銀廃止済み部品:コンビネーションメーター			
	六価クロム		六価クロムの使用無し 六価クロム廃止済み部品:金属部品類やボルト・ナット類の防錆目的コーティング他			
	カドミウム		カドミウムの使用無し カドミウム廃止済み部品:電気・電子部品のICチップ基板、厚膜ペースト他			

*1. 燃料消費率は主要諸元表をご覧ください。
 *2. WLTCモード走行
 *3. GWP: Global Warming Potential(地球温暖化係数)
 *4. フロン法において、カーエアコン冷媒は、2023年度以降、環境影響度を製造者等ごとに出荷台数で加重平均した値が目標値150を上回らないことが求められています。
 *5. 1996年乗用車の業界平均1,850g(リサイクル回収ルートが確立されているため鉛バッテリーを除く)。
 *6. ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージヘッドランプ、室内蛍光灯(交通安全上必須な部品の極微量使用を除外)。
 *7. VOC: Volatile Organic Compounds

TOYOTA ENVIRONMENTAL CHALLENGE 2050



トヨタは、気候変動、水不足、資源枯渇、生物多様性の損失など、地球環境の問題に対し、これまでも広く取り組んできました。今後も環境への取り組みを通じて、SDGsの実現に貢献します。

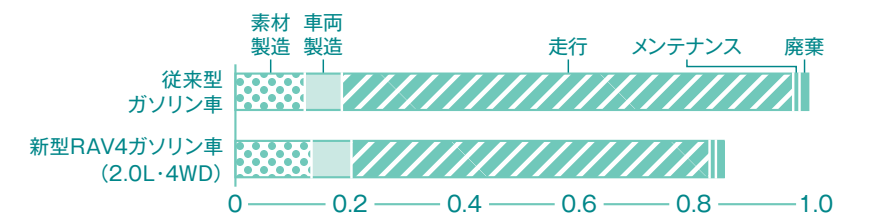


(<https://global.toyota/jp/sustainability/esg/environmental-policy/>)

■ カーボンニュートラルの実現

トヨタは、「カーボンニュートラル」の実現のために、「つくる」「はこぶ」「つかう」「廃棄・リサイクル」など、クルマの一生を通して、CO₂排出量を削減する取り組みを進めます。

LCA実施結果 CO₂ 二酸化炭素 (Carbon Dioxide)



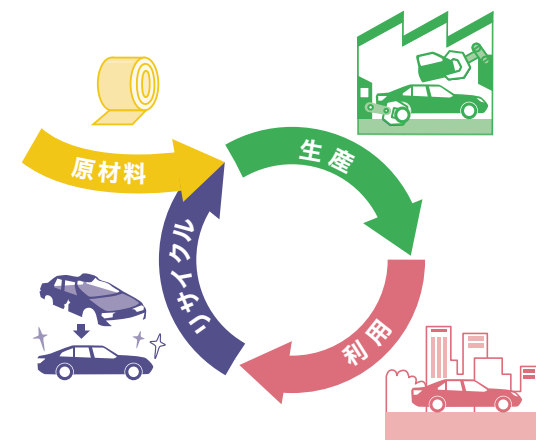
LCA Method Certified TÜV Rheinland CERTIFIED www.tuv.com ID: 000005804

トヨタでは、資源採取から廃棄・リサイクルまでの各段階を、クルマが環境に与える要因を定量的に総合評価する手法(LCA[ライフサイクルアセスメント]: Life Cycle Assessment)で評価し、自動車の生涯走行距離10万km(10年)で計算した場合の結果を指数で示しています。

トヨタが乗用車を対象に実施しているLCAの手法は、ドイツの第三者認証機関テュフラインランドによるISO14040/14044規格に基づく審査・認証を受けました。

■ 究極の循環型社会をめざして

トヨタでは、廃棄物を減らし、再利用可能なものは繰り返し使用し、さらに廃棄物を再び資源化します。



■ 人と自然が共生するために

トヨタは、水使用による環境負荷を小さくするとともに、生物の多様性を取り戻すために、自然保全活動の輪を地域・世界とつなぎ、そして未来へつなぐ活動を進めます。

